

# 1 上川のあらまし

## ① 歴史

1798	寛政 10	7月、幕吏3名が天塩川を遡り上川に来る
1807	文化 4	秋、幕吏近藤重蔵が石狩川上流を踏査
1857	安政 4	開拓使判官松浦武史郎が上川探検
1872	明治 5	開拓使使掌高畑居久馬（利宣）が上川の地勢、戸口状況調査
1885	〃 18	司法大輔岩村通俊、屯田兵本部長永山武四郎一行が近文山に登り地勢視察
1886	〃 19	忠別農作試験所設置、上川仮新道を開さく、上川鉄道予定線を測量
1890	〃 23	永山村屯田兵舎建築、上川郡に神居、旭川、永山の3村設置
1891	〃 24	永山村に屯田兵400戸移住、以降屯田兵の入植が進む
1897	〃 30	石狩国上川郡に上川支庁を設置
2010	平成 22	4月、上川総合振興局に改組、幌加内町を編入

## ② 位置・面積

北海道のほぼ中央に位置し、地形は南北に細長く、東西96.7km、南北224.4km、面積は10,619km<sup>2</sup>で全道の12.7%を占めています。これは、岐阜県（10,621km<sup>2</sup>）に匹敵する広さです。

（令和4年全国都道府県市区町村別面積調）

## ③ 地勢

中央を旭岳（2,291m）が主峰の大雪山系、北を天塩山系と北見山系、さらに南を夕張山系と日高山系が走行し、それぞれ広大な上川、名寄、富良野の各盆地を形成しています。

また、中央部は大雪山に源を發する石狩川が貫流し、北部は天塩岳に源を發する天塩川が縦断しており、南部は石狩川の支流である空知川が流れ、本道農業の中心地として広大な沃野を形成しています。

## ④ 気候

北海道のほぼ中央に位置し、四方が山に囲まれた内陸地帯の盆地であるため、冬季には最低気温-41.0℃（旭川市：明治35年1月25日）、夏季には最高気温36.8℃（上富良野町：平成26年6月4日）を記録するなど、冬季と夏季の寒暖の差が極めて大きな内陸性気候となっています。なお、最低気温-41.0℃は気象官署として全国1位の記録です。

また、南北に細長い地形のため、中央部・富良野・北部各地区の気象条件には相当の開きがあります。

（国土交通省気象庁HP：過去の気象データ検索による）

## ⑤ 人 口

上川管内の令和4年1月1日現在における住民基本台帳人口は476,280人で、これは全道の約9.3%を占めており、振興局別でみると、石狩振興局に次いで第2位となっています。

また、上川管内の高齢化率は35.2%で、全道の32.5%よりも高くなっています。

国勢調査実施年でみると、1965年(昭和40年)までは増加していましたが、1975年(昭和50年)に初めて減少し、1985年(昭和60年)に増加に転じましたが、1995年(平成7年)から再び減少となり、その後2020年(令和2年)まで連続で減少が続いています。

＜人口及び世帯数＞

市町村	人口(人)	世帯数(戸)
旭川市	326,772	177,111
士別市	17,578	9,004
名寄市	26,586	14,298
富良野市	20,388	10,390
鷹栖町	6,688	3,106
東神楽町	10,065	4,365
当麻町	6,257	3,032
比布町	3,529	1,772
愛別町	2,568	1,283
上川町	3,266	1,886
東川町	8,094	3,737
美瑛町	9,556	4,706
上富良野町	10,282	5,279
中富良野町	4,760	2,168
南富良野町	2,327	1,304
占冠村	1,080	644
和寒町	3,087	1,562
剣淵町	2,943	1,450
下川町	3,074	1,662
美深町	3,971	2,101
音威子府村	681	462
中川町	1,403	758
幌加内町	1,325	718
上川管内	476,280	252,798
※全道	5,148,060	2,771,079

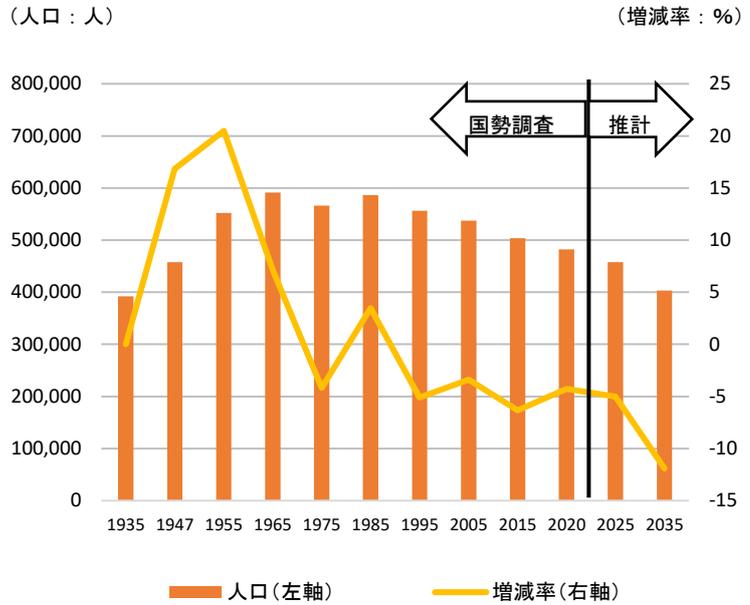
(令和4年1月1日住民基本台帳調査)  
※外国人住民数を含まない。

＜住民の年齢構成＞

年齢区分	上川管内(人)	高齢化率(%)	全道(人)	高齢化率(%)
0～14歳	49,995	10.5	545,954	10.6
15～64歳	258,860	54.3	2,929,655	56.9
65歳以上	167,425	35.2	1,672,451	32.5

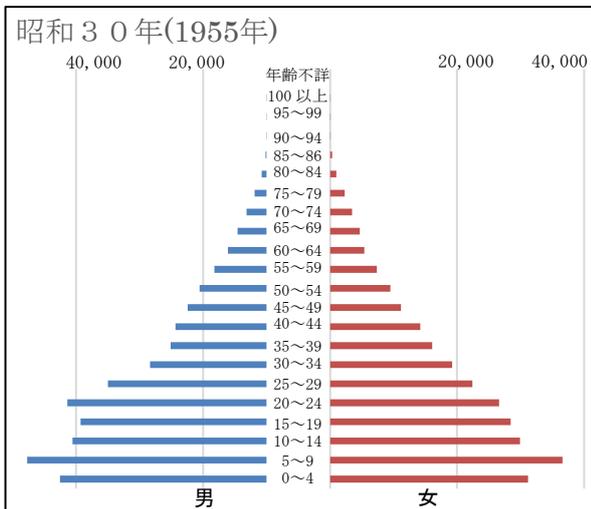
(令和4年1月1日住民基本台帳調査)  
※外国人住民数を含まない。

＜人口及び増減率の推移・将来推計＞

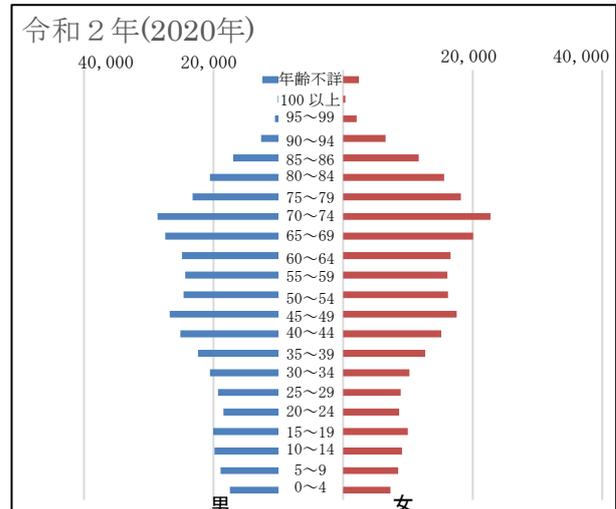


— 人口(左軸) — 増減率(右軸)  
(1935～2020: 国勢調査)  
(2025～2035は国立社会保障・人口問題研究所推計)

＜人口ピラミッドの変化＞



【単位: 人】



(1955・2020: 国勢調査)

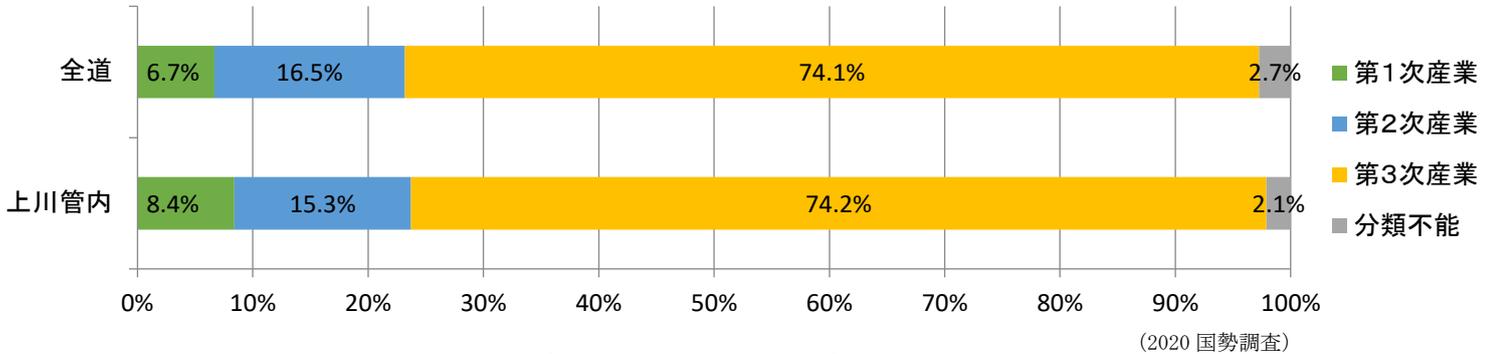
## ⑥ 就業構造

就業者数は、223,811人（令和2年国勢調査）で全道の9.5%を占めています。

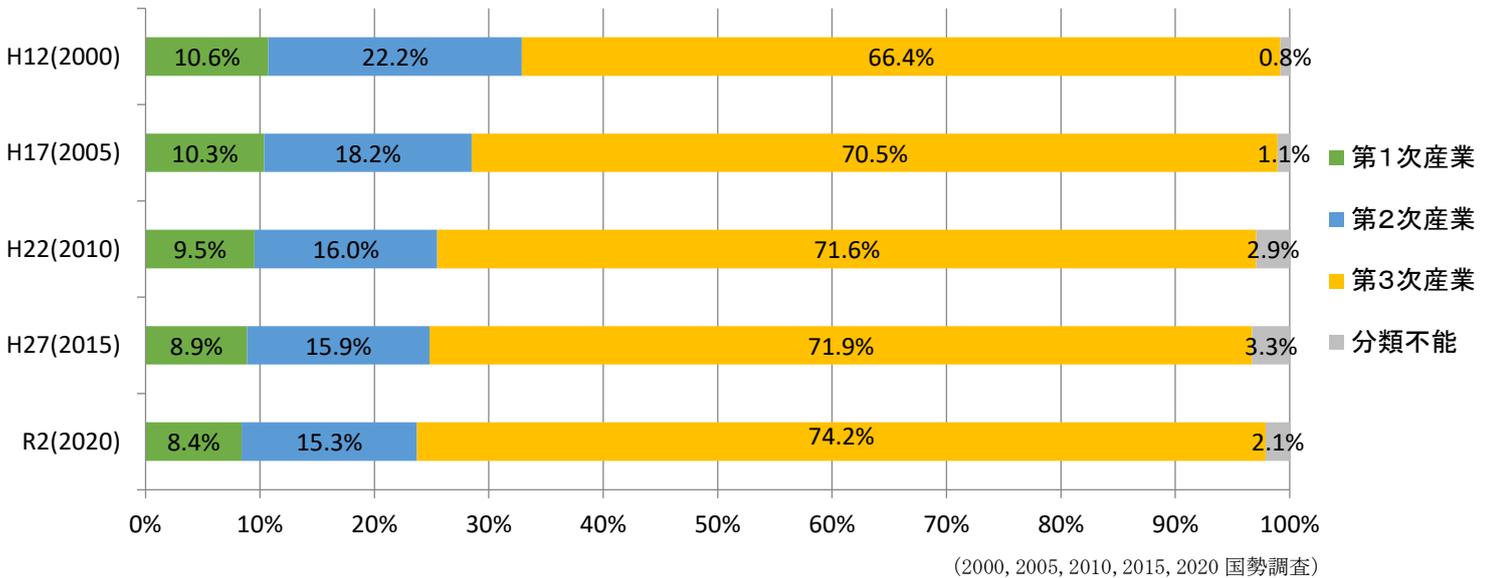
第三次産業就業者が年々増加し、第一次及び第二次産業の就業者数は減少しています。

また、少子高齢化が進み、60歳以上の高齢者の就労者の割合が増加し、令和2年国勢調査では、その割合が26.8%となっています。

### ＜産業別就業者数の構成比＞



### ＜産業別就業者数の年次推移＞



### ＜上川の就業者の年齢構成の推移＞

